



- Topics…～診断から治療まで～前立腺癌の先端医療を目指した取り組み
●取組案内1…精神科 ●取組案内2…皮膚科

附属病院の最新の医療を紹介する広報誌VOL.16が出来上がりました。これを機会に当院の医療を知っていただき、地域のリソースとして有効に活用していただければと思います。

Topics

～診断から治療まで～ 前立腺癌の先端医療を目指した取り組み

当院では、2012年より手術支援ロボット、ダビンチサージカルシステムを用いた内視鏡下前立腺全摘除術(RARP)を行っており、500例以上の患者さんに実施してきました。RARPは従来の開腹手術に比べて、手術痕が小さく出血量が少ない、尿失禁の回復が早いなどの利点があります。

一方、令和3年2月下旬から当院の東日本重粒子センターにおいて、前立腺癌に対する重粒子線治療が開始されます。前立腺癌は頭頸部癌などとともに、平成30年4月から重粒子線治療が保険適応となりました。重粒子線治療は従来の放射線治療に比べて治療期間が短いことが最大の特徴です。これまでの放射線治療はおおよそ2か月間と長期間を要していましたが、重粒子線治療の期間は3週間(週4回で計12回)と大幅に短縮されます。

その他、前立腺癌の診断には前立腺生検が行われますが、従来の方法では癌を疑う病変の位置を正確に把握しな

がら検査を行うことはできませんでした。しかし、最近になってMRI画像を超音波画像にリアルタイムで合成し、癌の疑いのある部位を狙って生検する事ができる“画像融合システム”が開発されました。これにより癌の見逃しが減少し、患者さんの負担を軽減できるようになってきています。当院でも令和3年度中には、この最新のシステムを導入し、先進医療として開始する予定です。前立腺癌の腫瘍マーカー(PSA)は高値であるものの、従来の生検方法では検出できなかった癌の検出率向上が期待されます。

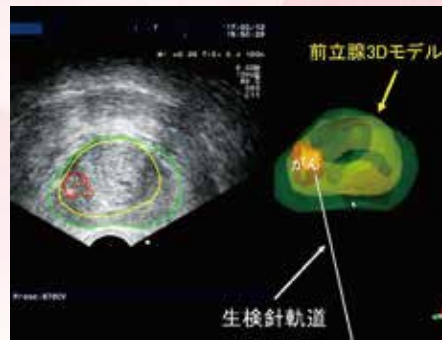
このように、当院では前立腺癌の診断から治療にかかわる最新のシステムが導入されます。全ての前立腺癌患者さんに対して、癌の状態、患者さんの身体状況やご希望に応じた総合的な診療体制がさらに充実することになります。前立腺癌が疑われる患者さんにつきましては、是非とも紹介いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。



ダビンチサージカルシステムによる手術風景



東日本重粒子センター 回転ガントリー照射室



画像融合システムを用いた前立腺生検(MRI画像を超音波画像にリアルタイムで合成することができる)

取組案内 1 精神科

「治療抵抗性」の精神疾患に対する最新の治療法を取り入れています

<うつ病>

米国の大規模うつ病プロジェクト(STAR*D)によれば、薬物療法や認知療法を1年以上かけて行ったとしても寛解率は67%であり、約3分の1のうつ病患者さんは「治療抵抗性」だったと報告されています。当科では「治療抵抗性」うつ病に対する補助薬物療法の治験を行っておりますので、そのような患者さんがおりましたら、気軽にご相談・ご紹介ください。

<認知症>

当科ではアルツハイマー型認知症に伴う行動障害(アジテーション)に対する薬物療法の治験も行っています。決まった行動を繰り返す「過度の運動行動」や、怒鳴る・口汚い言葉を使う「攻撃的発言」などが見られ、家族が困っている患者さんがおりましたら、気軽にご相談ください。

<統合失調症>

近年、多くの統合失調症の治療薬がわが国にも導入され、患者さんの病状を改善できるようになりました。しかし、幻覚

妄想などの精神症状が良くならない、または副作用が生じやすいために必要な量の薬を投与できない、「治療抵抗性」の患者さんが一定数いらっしゃいます。クロザピンはこのような「治療抵抗性」の統合失調症に有効とされており、日本で行われた臨床試験では約60%で精神症状の改善が認められたと報告されています。クロザピンは2009年に日本で導入され、当科でも今年度から使用できるようになりました。



症例検討会の様子

取組案内 2 皮膚科

難治性疾患から希少疾患まで幅広く対応

県内の皮膚科医療の最後の砦として、癌から水疱症、炎症性皮膚疾患、膠原病、感染症、アレルギー性疾患まですべての皮膚疾患に対応しています。

皮膚癌では、手術・放射線治療・化学療法等(免疫チェックポイント阻害薬、分子標的薬等も含め)、集学的治療を行っています。また高齢者で長期入院が難しい場合は、外来通院で可能な方法や短期間入院で治療できるよう、患者さんのニーズに合わせた治療を提案しています。乾癬はバイオ製剤の出現により患者さんのQOLが飛躍的に改善しています。長年皮膚症状に苦しんできた患者さんから、温泉に久しぶりに行った、半そでの服を着ることができたなどの喜びの声をいただいております。

その他難治性の疾患である、乏汗症・無汗症では発汗試験を行った上で、ステロイドパルス療法などの治療を行っています。脱毛症では局所免疫療法からステロイドパルス療法まで、病状に合わせた治療を行います。白斑では、新しい治療を開

発し施行しています。さらに遺伝性色素異常症については、全国から検体を受け付けており、遺伝子パネルによる診断を行っている国内では唯一の施設です。

難治性のcommon diseaseから希少疾患まで、診断・治療に難渋している際はご相談・ご紹介ください。



症例カンファレンスの様子